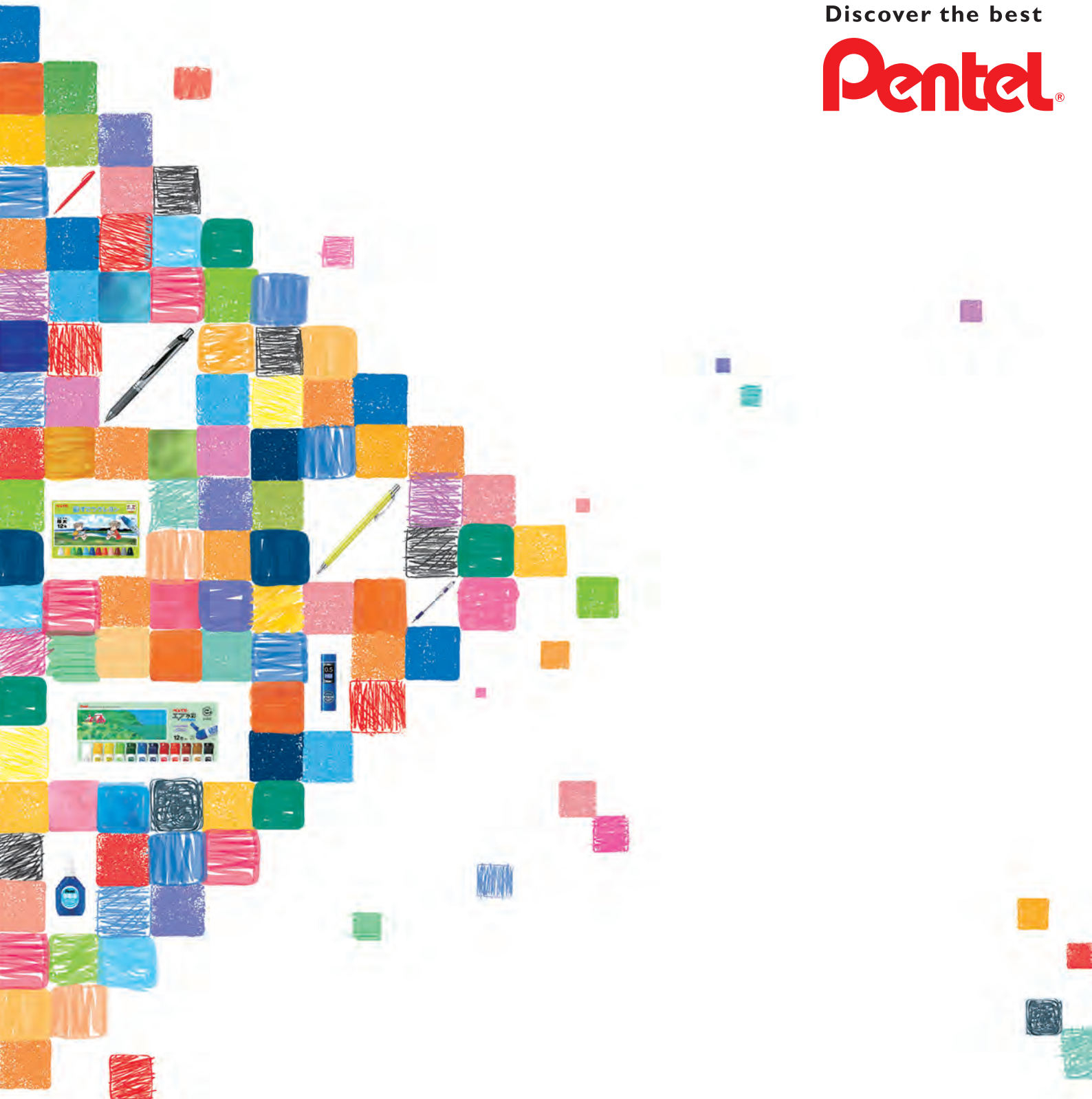


Discover the best

**Pentel**<sup>®</sup>



# *Pentel Corporate Report 2016*

ぺんてるコーポレートレポート 2016

# Contents

## ぺんてるについて

- 1 ペンてるグループの概要
- 3 ペンてるのあゆみ
- 5 TOP Message
- 7 Our Vision

## Our Vision 実現に向けて

- 11 技術
- 13 世界
- 15 表現

## 社会

- 17 お客様の安心のために
- 18 お客様の笑顔のために
- 19 パートナー、従業員とともに
- 21 地域・社会とともに
- 23 次世代のために

## 環境

- 25 環境理念・環境方針
- 27 環境保全への取り組み

## ガバナンス

- 29 誠実、健全であるために

## 編集方針

当社は2004年から「環境社会報告書」を発行してきました。2009年からは会社案内と一体化し、「コーポレートレポート」と改め、より幅広いステークホルダーの皆様の関心に応えることを目的に編集しています。

当社は2016年に創立70周年を迎え、本書では次の20年間を見据えたビジョンと、ビジョンを集約した新しいコーポレートステートメントについて、TOP Messageから特集ページの中でご紹介しています。

環境関連データは原則として2014年度までの情報を収集期間としています。活動内容には一部2014年度以降についても掲載しています。

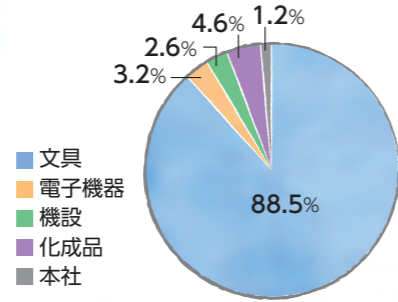
## 会社概要

社名：ぺんてる株式会社 PENTEL CO.,LTD.  
 本社：〒103-8538 東京都中央区日本橋小網町7-2  
 電話番号：03-3667-3333(代表)  
 代表者：代表取締役社長 和田 優  
 創立：1946年(昭和21年)3月  
 資本金：450百万円  
 従業員数：697名(2014年度・単体)  
 売上高：39,440百万円(2014年度・連結)  
 23,177百万円(2014年度・単体)

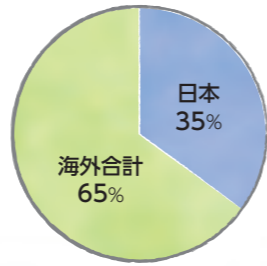


(2015年3月31日現在)

事業活動内訳 (2014年度・単体)



地域別売上構成比 (2014年度・連結)



## ぺんてるグループのネットワーク

世界21の販売拠点で、120以上の国と地域に販売網を構築



## Company's Outline

# ぺんてるグループの概要

当社は、くれよん、えのぐなど学用品の製造販売からスタートし、高い技術力と独創的な発想から、多くの筆記具を生み出してきた文具事務用品の総合メーカーです。さらに事業分野は、電子機器や産業用ロボット、産業用自動組立機の製造販売、化粧品容器をはじめとしたOEM関連製品の製造販売まで広がっています。

## 事業概要

文具を基点にさまざまな事業を展開

### 文具事業

現在当社では、画材・消し具・マーキングペン・ボールペン・シャープペンシル・替芯といった文具事務用品を製造・販売しています。“世の中になくものを開発し、新たな需要と市場を創造する”という信念のもと、世界で初めてのノック式シャープペンシル「ぺんてる鉛筆」や爆発的な人気を呼んだ「ぺんてるサインペン」、人工毛を使用した毛筆「ぺんてる筆」など、多くの新製品を世に送り出してきました。今後も創業時より一貫した冒険心、アイデア精神を受け継ぎ、お客様に愛される製品を提供していきます。



WEB <http://www.pentel.co.jp/>

### 電子機器事業

静電容量技術を応用したペンタブレット・タッチスイッチ・タッチパネルの開発、製造、販売を通じて、人とマシンをやさしくつなぐインターフェースデザインを提供しています。



WEB <http://mouhitotsuno.pentel.co.jp/it/index.php>

### 化粧品事業

お客様のブランドや仕様に合わせ、化粧品容器・医療機器などの部品・製品の製造販売を行っています。お客様のブランドづくりをぺんてるの技術でサポートします。



WEB <http://mouhitotsuno.pentel.co.jp/>

### 機設事業

自社製品の生産ライン構築実績をもとに、現在までに自動車・医療・日用品など他業種向けに、自動機械を2,000セット以上販売しています。これからも先端技術や最新技術に取り組み、さらなる発展を目指します。



WEB <http://mouhitotsuno.pentel.co.jp/automation/index.php>

# ぺんてるのあゆみ

2016年、ぺんてるは創立70周年を迎えました。  
今後も、より便利な、より上質な「伝達、表現」を目指し、  
時代とともに発展していきます。



会社のあゆみ

1946年(昭和21年)

- ・大日本文具株式会社設立
- ・草加工場設立



1953年(昭和28年)

- ・海外市場への進出(輸出開始)

1963年(昭和38年)

- ・吉川工場設立

1965年(昭和40年)

- ・現地法人  
ぺんてるオブアメリカ  
設立

1964年(昭和39年)

- ・香港、シカゴに  
支店設置
- ・茨城工場設立



1966年(昭和41年)

- ・輸出貢献により、  
内閣総理大臣賞を受賞
- ・海外工場ユーロ  
ぺんてる設立

1970年(昭和45年)

- ・日本万国博の国際児童画館  
に出展参加



1976年(昭和51年)

- ・全社を挙げて品質管理を推進した結果、  
「デミング賞実施賞」を受賞



1978年(昭和53年)

- ・品質管理の生みの親、  
デミング博士来社  
(工場視察)



1971年(昭和46年)

- ・社名を  
「ぺんてる株式会社」とする

1979年(昭和54年)

- ・先進国首脳会議(東京サミット)で、  
ローリングライターの  
公式筆記具として採用される

## TOPICS

「ぺんてる」の社名の由来とは?

ぺんてるという社名は、画材専門メーカーとして  
創業したことからつけられたものです。ペインティ  
ング(えのぐ・くれよん・パスなどで絵を描くこと)  
と、パステル(固形描画材)を合わせてぺんてるで  
す。また、筆記具の総称のペンと、「伝える・表現  
する」のテル(Tell)の意味も含む、まさにぺんてる  
の製品や事業内容を象徴する社名といえます。



1980年(昭和55年)

- ・小型精密組立ロボット  
<PUHA>を開発、  
ロボット業界進出



1986年(昭和61年)

- ・日本初の  
国際文具事務用品  
見本市へ出展

1992年(平成4年)

- ・WWF  
(世界自然保護基金)  
活動を支援開始

1994年(平成6年)

- ・パリ国際見本市で、  
トラディオ・プラマン  
が金賞を受賞

1995年(平成7年)

- ・文具業界初、  
ISO9001 認証取得  
(茨城・吉川工場)



2000年(平成12年)

- ・国内3工場において、  
ISO14001の取得完了

2006年(平成18年)

- ・創立60周年記念行事で  
従業員一同で描いた  
「世界で一番長い絵」  
がギネスに正式認定



2009年(平成21年)

- ・タイ工場設立、  
海外工場7拠点となる



2010年(平成22年)

- ・ぺんてるロシア設立、  
海外販社21社となる

2011年(平成23年)

- ・創業者堀江幸夫  
生誕100年  
「現代大家作品展」  
開催



2013年(平成25年)

- ・サインペン50周年



2014年(平成26年)

- ・「GINZA RAKUGAKI  
Café&Bar by Pentel」  
期間限定オープン



2015年(平成27年)

- ・ぺんてるオブアメリカ  
創立50周年



2016年(平成28年)

- ・ぺんてる創立70周年



製品のあゆみ

1955年(昭和30年)

- ・「ぺんてるくれよん」  
を発売



1960年(昭和35年)

- ・世界初のノック式  
シャープペンシル  
「ぺんてる鉛筆」、  
シャープペンシル替芯  
「ハイポリマー芯」、  
油性ペン  
「ぺんてるペン」  
を発売



1963年(昭和38年)

- ・「ぺんてるサインペン」  
を発売



1970年(昭和45年)

- ・シャープペンシル  
「P207」  
を発売



1972年(昭和47年)

- ・水性ボールペン  
「ボールぺんてる」  
を発売

1976年(昭和51年)

- ・「ぺんてる筆」  
を発売

1983年(昭和58年)

- ・「ぺんてる修正液」  
を発売



1989年(平成元年)

- ・中性ボールペン  
「ハイブリッド」  
を発売



1992年(平成4年)

- ・油性ボールペン  
「R・S・V・P」  
を発売



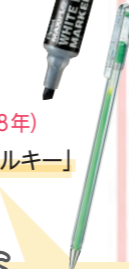
1994年(平成6年)

- ・ホワイトボードマーカー  
「ノックル」  
「MAXIFLO」  
を発売



1996年(平成8年)

- ・「ハイブリッド・ミルクィ」  
を発売



2000年(平成12年)

- ・日本初エコマーク付き  
えのぐチューブ  
「エフ水彩ポリチューブ入り」  
を発売



- ・水性ゲルインキ  
ボールペン  
「エナージェル」  
を発売



2010年(平成22年)

- ・低粘度油性インキ  
ボールペン  
「ビクワニヤ」を  
発売
- ・替芯  
「シユタイン」を  
発売



2013年(平成25年)

- ・携帯筆ペン  
「きらり」を発売
- ・デジタル文具  
「アンキスナップ」  
を発売



2014年(平成26年)

- ・0.2mmの超極細シャープペンシル  
「オレンズ」を発売
- ・カスタマイズペン  
「アイプラス」を発売



## TOPICS

宇宙へ旅立ったサインペン ～現在も愛され続ける超ロングセラーアイテム～

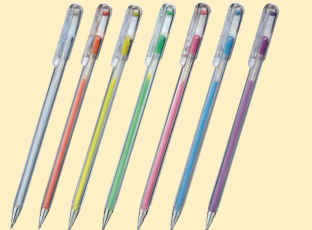
発売当初、日本での売り上げははまひとつだった「サインペン」。そこで、米国の見本市でサンプルを配ると、そのうちの1本がジョンソン大統領の手に渡ること。大統領は書き味を大いに気に入り、その話が新聞や雑誌で紹介され、たちまち大ヒット! さらに、NASAの公式スペースペンとして採用され、1966年宇宙を旅して還ってきました。その後日本でも話題となり、通算20億本を超えるロングセラーとなりました。



## TOPICS

ミルクィ現象 ～1年間で1億本を超える大ヒット!～

1996年、パステルカラーのボールペン「ハイブリッド・ミルクィ」が発売されました。写真やプリクラ、黒い紙にも書けることが特徴で、発売直後から女子中高生の間で話題となりました。爆発的な人気となったミルクィは、全国の文具店で入荷する先から売れ、文具で初めて「品切れお詫びポスター」が貼り出されるほどでした。当時の女子中高生の間では全7色持っていることがステータスでした。





## 既成概念を打ち破る若手の発想が 次の20年を切り拓きます。

### Our Mission

— 2016年に創立70周年を迎えましたが、その意義をお聞かせください。

70年間という長きにわたりビジネスを継続することができたのは、ひとえに全てのお客様、全ての関係者の皆様のご支援があったからこそであると、改めて深く感謝を申し上げたいと思います。

創業者である故堀江幸夫元会長は1946年(昭和21年)3月、35歳にして文具全般を仕入れ販売する構想のもと、大日本文具株式会社(旧社名)を立ち上げました。今日でいえば幸夫氏はまさにベンチャー起業家でした。当時はまだ、空襲で焼土と化した街にようやくバラックが散見し、何もかも失って虚ろに歩く人々が溢れる時代でした。起業当初こそは商品を仕入れて販売していましたが、終戦後に訪れた平和な時代にあっては、音楽や絵画、彫刻などの芸術文化が庶民の暮らしの中に広く普及することを幸夫氏はいち早く予見し、庶民の夢に応えるくれよんやパスを開発することが自らの使命であると自覚したのです。そして創業の年の暮れには早くも草加に最初の工場を設立し、画材開発にチャレンジしました。この創業当時の幸夫氏の志こそがぺんてるの原点です。

1951年(昭和26年)には、くれよんとパステルの利点を組み合わせた「PENTEL」の商品化を成功させました。そして1955年(昭和30年)には、より品質の安定した「ぺんてるくれよん」を発売しています。更に幸夫氏は画材の開発に甘んじることなく、人々が表現する喜びを、より豊かに、より楽しく、そしてより簡単に実現できる多様な筆記具の開発に邁進します。その結果、1960年には世界初のノック式シャープペンシル「ぺんてる鉛筆」を、1963年には、後に米国NASAに採用された世界的ヒット商品「ぺんてるサインペン」を発売しました。その後の高度経済成長期には、水性ボールペン「ボールぺんてる」、「ぺんてる筆」、「ぺんてる修正液」、中性ボールペン「ハイブリッド」を、2000年代には今日の主力ブランドである「エナージェル」や「オレンズ」など、時代を牽引する画期的筆記具類を矢継ぎ早に世の中に生み出していったのです。

世界中の人々の想いを表現できる、使いやすい筆記具を開発し、お届けすることこそ、70年間の社史のなかで培われたぺんてるの使命なのです。

### Our Vision

— 次のステージで何をを目指すのかをお聞かせください。

数年前に、若手社員を中心にしたプロジェクトを立ち上げ、ぺんてるのこれからの20年間に私たちは何を目指していくべきなのかを徹底的に議論しました。このなかでぺんてるは「色」、「先っぽの技術」、「敷居を下げる」ことに強いこだわりを持って商品を開発していることを改めて確認しました。そしてこれらのこだわりが生活者にとってどんな価値があるのかを突き詰めていくと、「感じるままに、頭の中の考えやイメージを素直に表現できる」ことにあるのではないかと、思い至りました。ここから私たちの開発すべき商品は、描写具でもなく、筆記具でもなく、「表現具」と捉えてはどうかという方向性を導き出したのです。この想いをぺんてるの次の20年を見据えたビジョンとして、以下のようにまとめました。

**私たちは、  
感じるままに想いをかたちにできる道具をつくり、  
表現するよろこびを育みます。**

このビジョンを更に集約する言葉として、新しいコーポレートステートメントを設定しました。それが、「Discover the best」です。

Discover the best

**Pentel.**

ぺんてるには、思いのままに気持ちを表現できる道具が揃っています。「Discover the best」という言葉の一つには、それらを使ってあなたにとっての一番を探求してほしいという想いを込めました。そこに至るまでには、書き直したり、上手に描けなかったりすることもあるでしょう。ぺんてるはそうした過程も大切にしたいと思えます。結果だけが全てではないからです。

もう一つは、ぺんてるのものづくりに対する意思表示としての想いです。最高の技術、品質、書き心地を見出していこうとする、創業当初から引き継がれてきたチャレンジ精神を改めて共有したいと思いました。

### Our Strategy

— 中期経営計画(2015～2018年度)のポイントをお聞かせください。

2018年度連結売上高462億円(2014年度実績395億円)が現中期計画の目標値です。2007年度には売上高458億円という実績がありますので、この数字は十分に達成が可能な目標値です。それはむしろ、スタート地点に戻るといふ見方をすべきで、そこを本物のチャレンジにしたいと考えています。

目標を達成するために、今、もっとも必要なのは若手の人材の育成です。開発でも営業でも生産でも、またスタッフでも、若い人たちが既成概念を打ち破って会社を牽引することなしには、とても時代と向き合っていくことはできません。若き起業家として創業者の幸夫氏が発揮したのと同じ情熱が、いまこそ必要です。そのために若手社員が存分に力を発揮できる環境を用意することが経営の役割だと考えています。そのなかから次のリーダーが抜け出してくることを大いに期待しています。

当面の戦略として、2014年に整えた一気通貫の商品開発体制による商品開発力のアップ、「エナージェル」や「オレンズ」などのパワーブランドの更なる育成、アジアや中南米などの新興市場でのシェア拡大に全社をあげて取り組みます。また、これら戦略を支えるための全世界の生産拠点の強化も同時に取り組みます。この成長戦略の実現こそが、全てのステークホルダーの皆様の期待にお応えする道であると決意しています。



代表取締役社長

和田 優

#### 社訓

- 一、社業を通じて国家・社会への貢献
- 一、製品を通じて全世界よりの信用の蓄積
- 一、相手の気持になって行動する感謝と奉仕の精神
- 一、アイデアを尊ぶ研究的態度
- 一、適正利潤と冗費節約による会社・従業員の繁栄
- 一、正しい人格と愛される人柄の培養

#### ぺんてるグループ行動規範

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1 法令の遵守        | 6 ステークホルダーとの関係 |
| 2 人権の尊重        | 7 取引先との相互発展    |
| 1 雇用における機会均等   | 8 地域との共存       |
| 2 児童労働、強制労働の禁止 | 9 多様性の理解       |
| 3 差別の禁止、人格の尊重  | 10 利益相反の回避     |
| 3 職場環境の整備      | 11 反社会勢力との隔絶   |
| 4 環境保全         |                |
| 5 製品・サービスの安全   |                |

# Our Vision

私たちは、  
感じるままに想いをかたちに  
表現するよろこびを育みます。  
できる道具をつくり、

We create the tools that enable people everywhere to give form to their inner thoughts and feelings,  
and to cultivate the joy of expressing themselves.

## 「描写具」でも「筆記具」でもない「道具」づくり

うまい絵を描くための「描写具」でもない  
情報を伝えるための「筆記具」でもない  
感じるままに、頭の中の考えやイメージを素直に表現する・伝えるための道具  
その「道具」は、デジタルツールの世の中にあっても、  
きっと、人々に必要とされる「道具」であり続けると、私たちは考えます。  
そんな私たちの想いを、Visionとして表現しました。

Our Visionの策定に伴い、コーポレートステートメントも新たに設定しました。  
新コーポレートステートメント“Discover the best”には、  
ペンてるの表現具を使って、あなたにとっての一番を探求してほしいという想いを込めました。  
また、最高の技術、品質、書き心地を見出していこうとする、創業当初から引き継がれてきたチャレンジ精神を  
改めて共有したいと思います。

Discover the best

**Pentel**<sup>®</sup>



# Our Vision 策定のため ワークショップを開催しました!

社員一丸で

## フェーズ1 ペンてるの強み、こだわりについて徹底討論!

- 他業界を事例に、企業の強み・らしさを考える
- 自分の「おすすめペンてる商品」をプレゼンする
- 個人が感じた商品の魅力をチームで掘り下げる
- ペンてるの魅力を言葉や絵で形(広告案)にする

## フェーズ2 ペンてるの価値をビジョンに落とし込む

- 現在の課題/未来というフレームでペンてるの提供価値を考える
- チームごとにビジョンにつながる象徴的なアイデアを発表する
- 象徴的なアイデアからビジョンの骨子をつくる
- 参加者が最も印象に残った言葉について発表し合う

表現するよろこびで世界をいっぱい。  
社員の想いを一つにし  
新しい企業ビジョンをつくりました。

2013年、ペンてるは社員参加のワークショップを実施し、20年後に向けた企業ビジョンづくりに取り組みました。ワークショップでは、一人ひとりが自分の考えるペンてるの強み、こだわりについて発表。次に、全員で共有した強み、こだわりを活かした象徴的な商品・サービスがどんなものかを考えながら、未来のペンてるの目指すべき姿を探りました。長時間におよぶ議論の結果、現在のペンてるの優位性をもとに、さまざまな部署や階層の社員たちの意見を集めた新しい企業ビジョンの骨子がまとめられました。

**先っちょ!**

ワークショップを受けて...  
いろいろな人の意見を聞いて、とことん考える時間を持てたことは、外部への情報発信や提案活動に大いに役立っています。

デザイン室  
菊池 寛

**誠実**

ワークショップを受けて...  
海外市場でのペンてる商品のありかたや、お客様が使うシーンを考えた商品づくりを意識するようになりました。

商品開発本部  
加藤 直樹

**Variety**

ワークショップを受けて...  
子どもの時たくさんの人に使ってもらえる強みを活かしながら、多彩なアイデアを形にする会社を目指したいです。

グローバルSCM部  
駒崎 章子

**創造し続ける**

ワークショップを受けて...  
メーカーとして新しい価値を創造し続ける必然性を再確認でき、その結果としての社会貢献への思いも高まりました。

香港ペンてる  
石村 晴之

**り。またーと**

ワークショップを受けて...  
今後の商品企画だけでなく、社員のパフォーマンスを上げるための社内の仕組みづくりにも、一つの旗印ができました。

総務人事部  
福島 真人

**フェーズ1**

ペンてるの強み、こだわりについて徹底討論!

楽書き RAKUGAKI

**フェーズ2**

ペンてるの価値をビジョンに落とし込む

Complete!

**書く と 描く の間**

ワークショップを受けて...  
自分が開発担当するボールペンでなく「ペンてる=画材だ」という方が多く、それらの分野にも挑戦したくなりました。

草加工場 基礎研究所  
宮下 泰

**表現具**

ワークショップを受けて...  
筆記具でも画材でもない商品の提供価値を、上から与えられるのではなく、自分たちで言葉にできたことは良かったです。

量販営業部  
川崎 貴昭

**Potential**

ワークショップを受けて...  
「表現」が持つ無限の可能性をあらためて感じ、それを当社の商品と活動が支えるイメージを描くことができました。

ペンてるオプアメリカ  
小海 長太郎

**しきい を 下げる**

ワークショップを受けて...  
議論で出てきたキーワードを周囲に伝えて、想いを共有する強いチームをつくる。それが参加者である自分の役目です。

茨城工場 ペン製造部  
望月 進

ワークショップでまとめられた骨子から生まれた新しいビジョンは、「ペンてるがどんな価値を創造する企業を目指すのか」という指針となるものです。自分たちで作りだした自分たちのビジョンの実現に向けて、ペンてるでは社員一人ひとりが各々の新たな挑戦を始めています。

# Pentel TECHNOLOGY

## 感じるままに想いをかたちにできる 道具をお届けするために



ペン先で  
タッチや、太い・細い  
を使いわけ

**先っぽ  
技術**

### オレンズ

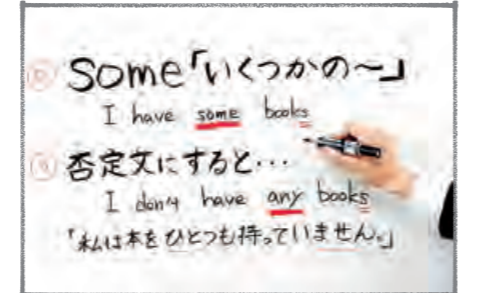
「細くてキレイな字が書ける」と好評のオレンズ。その秘密は、ペン先の「オレンズシステム」にあります。極細0.2mmの芯をペン先のパイプから出さずに筆記する新方式。パイプが常に芯をサポートしていますので、折れにくく安定した筆記が可能です。パイプは、先端の角を丁寧に丸く仕上げているので、紙面にひっかかりにくく、書き心地は非常になめらか。ノートをキレイにとりたい学生のニーズに、ぺんてるは「先っぽ技術」で応えます。



### ノックルボードにフィット

ホワイトボードマーカーには、「滑ってキレイな文字を書きにくい」との潜在的な不満がありました。ぺんてるは、ペン先の硬さに着目して、素材と形状の両面からアプローチしました。素材には柔らかくて耐久性のあるナイロンを採用し、根元にスリット（溝）を入れることで、柔らかく自然にしなり、ホワイトボードにしっかりフィットしながらスラスラと書ける、ペン先の開発に成功しました。さらに、このペン先は筆圧の強弱によってしなり具合が変わるため、1本で中字から太字まで自在に書け

るという良さも持っています。「先っぽ技術」へのこだわりで、不満の解消と使い勝手の良さを、同時に実現した製品です。



### Voice

**「書き味」に拘り、ペン先の素材とスリット形状を探究しました。**

自然にしなる書き味のよいペン先を実現するため、素材の見直しと同時に、ペン先根元に設けたスリット（溝）の幅や深さを、数十種類試作してベストを探究しました。

ぺん 開発課  
小倉 和人



### ゆびえのぐ

広く保育園、幼稚園、小学校で実施されているフィンガーペイントでお使いいただいている「ゆびえのぐ」。直接お子さまの手に触れるものだからこそ、高い安全性にこだわっています。配合は、欧州玩具安全性規格のフィンガーペイント安全基準EN71-7に適合しており、食物アレルギー 27品目も含まれませんし、パッチテストも実施済みです。また、えのぐ、容器、ラベルなど、すべての部品で重金属分析試験を実施しており、国際玩具安全基準ISO8124-3および欧州玩具安全性規格の重金属規制EN71-3に適合しています。加えて、触り心地にこだわっているため、心地良い感触で表現することに集中できます。「ゆびえのぐ」は、安全性と使い心地で、お子さまが自由に表現する「敷居」を下げます。



### Voice

**安全性と触り心地も追求しました**

欧州玩具安全性規格EN71-7に適合する配合の探索に苦労しました。また、触り心地は人によって「気持ちいい」と「気持ち悪い」が紙一重で異なりますので、多くの人が「気持ちいい」と感じる感触に上げることが難題でした。

画材開発課  
鎌田 理沙



**色**

頭の中のイメージを  
さまざまな色で表す



### ポスターカラー

ぺんてるは日々、品質向上に努めています。教育現場でご愛用いただいているポスターカラー（クラス用）でも、「色相」「発色性」「隠ぺい力」のさらなる向上を図りました。児童に正しい色名を教える教材として使用されますので、色相はJIS規格に準拠し、より鮮やかな発色と優れた隠ぺい力によって、不必要な色むらを防ぎました。ぺんてるは「色」へのこだわりによって、今後も教材に求められる品質への責務を果たしてまいります。



さらに  
**品質向上!**

- 色相
- 発色性
- 隠蔽力

発売 **15年**のロングセラー  
世界 **120以上**の国と地域で愛用  
累計販売本数は **5億本**  
ボール径は **6種類**に拡充

# Pentel TO THE WORLD

## 製品を通して、表現するよろこびを 世界の人々の手に

### 表現する楽しさを世界に広める 「ペんてるアーツ」



ペんてるアーツは、主に海外市場で展開する、パステル、筆（ブラッシュ）、えのぐ、カラーペン、マーカーなど、画材カテゴリーのブランド名です。思い思いのアートを思い思いの表現具で楽しんでいただけるペんてるアーツの魅力を各国で伝えるために、さまざまな取り組みを行っています。

#### ポーランド 「日本祭り」で ペんてるアーツを紹介

画材をテーマとしたワークショップを積極的に実施し、ペんてるアーツの浸透を図っています。2015年5月には、ワルシャワで開催された「日本祭り」（ポーランド商工会、日本人会、日本大使館共催）に出展。「イラストレーターによるTシャツ制作の実演」「塗り絵の体験コーナー」で多くの来場者にペんてる製品の楽しさを体験してもらいながら、布描きくれよんのセットを販売しました。



#### イタリア 「そめーるセット」がヒット!

2015年、布描きくれよんとTシャツをパックにした「そめーるセット」の特別バージョンを販売し、約10,000セットを売り上げました。2016年も「小さな子どもから10代の皆さんへ」「Tシャツだけでなく、ショッピングバッグにも」というかたちで、より幅広い層の皆様へペんてるアーツのいろいろな楽しみ方を提案しています。



- エナージェル トラディオ**  
フランスで開発・生産。欧州・日本で人気に。
- エナージェル パーマネント**  
耐水性がさらにパワーアップ! 2015年海外で発売開始。
- エナージェル ユーロ**  
日本では**就活ペン**として人気。
- エナージェル エックス**  
2010年発売。カジュアルモデルが欧米を中心に**世界**で大人気。
- エナージェル Alloy**  
アメリカで人気の定番商品に。
- キャップ式エナージェル**  
2000年 海外で発売開始。
- ノック式エナージェル**  
2005年発売。売り上げの**8割**を占める主力製品に。北米を中心に世界的に販売。
- キャップ式エナージェル**  
2014年 中南米・欧州・アジア市場に向けて発売開始。
- 2006年エナージェルが「ISOT ステーションナリーオープンサイヤー」**グランプリ受賞**。

### 世界120以上の国と地域で 愛用されるロングセラーブランド 「エナージェル」

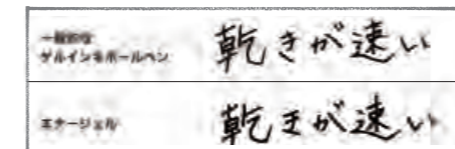


#### ゲルインキボールペンの常識を超える品質

ペんてるが世界市場に提供するゲルインキボールペン「エナージェル」の開発に取り組んだ1990年代後半は、中国や韓国のメーカーとのグローバルな販売競争が激しくなった時期でした。そうした中でペんてるは、価格ではなく品質によって他社との差別化に挑

戦。独自のインキ技術をもとに、潤滑剤、染料、チップなどに工夫を重ね「エナージェル」の開発に成功しました。「紙の上を走るようななめらかな書き味」、「濃く鮮やかな筆跡」そして「汚れにくい速乾性」。従来のゲルインキボールペンにはない、まったく新しい価値をお届けできる製品の誕生でした。

発売から15年あまり、「エナージェル」が世界のいろいろな人々から受け入れられてきた理由は、その優れた「書き味品質」だけではありません。「書く道具」に対する各地の多様な



ニーズに的確に対応してきたからこそ、世界中で愛されるブランドへと成長できたのです。  
**進化を続けることでブランドを確立**

2000年の発売以来、「エナージェル」は、文字や筆記具の好みについての国民性や文化の違いに対応するため、市場調査や現地の担当者の声をもとに、機能やデザイン、ラインナップなど、あらゆる面から改良が続けられてきました。たとえば当初はキャップ式タイプだけでしたが、2005年にはノック式タイプが登場し、北米を中心に全世界で売り上げを伸ばしてペんてるの主力製品となりました。デザイン面では、カジュアルな「エナージェル

エックス」、オトナの雰囲気漂わせるボディで欧州で人気となった「エナージェル トラディオ」など、多彩な展開が行われ、ブランドの魅力を広げていきました。

またラインナップの拡充も、多くの愛用者の獲得につながりました。ボール径では0.5mm、0.7mm、1.0mmに0.3mm、0.35mm、0.4mmを加えて、細書きが好まれる漢字圏市場で支持を獲得しました。

このように各地の市場ニーズをとらえながら進化を続けてきた結果、「エナージェル」は世界市場で認められるブランドへ。現在、120以上の国と地域で愛用され、これまでの販売本数は5億本のほっています。



# Pentel EXPRESSION

## 自由に表現する楽しさを共有するために



### 「らくがきスタジオ」でワクワク体験！

ぺんてるは、自由に表現できる場をRAKUGAKI Café&Barのほかにも広げています。2015年4月には、北海道日本ハムファイターズの本地札幌ドームに、横幅10mの巨大らくがきコーナー「ファイターズ らくがきスタジオ」を設置し、多くの来場者楽しんでいただきました。

### 「RAKUGAKI」を思う存分楽しめる空間をプロデュース



### 心を解放して表現する喜びを体験できる「GINZA RAKUGAKI Café&Bar by Pentel」

ぺんてるは、自由に表現する楽しさをより多くの人に体験していただくことを目的として、2014年、2015年に期間限定で、店内にあるものすべてにらくがきができるGINZA RAKUGAKI Café&Bar by Pentelをオープンしました。

「表現」とは、「感じるままに、頭の中の考えやイメージを素直に表すこと」であり、その一番身近な手段がRAKUGAKIであると、ぺんてるは考えています。

テーブルや椅子、壁、床、窓、柱はもちろん、有名な絵画や石膏像のレプリカにも思うままにらくがきを可能にしました。ランチオンマツ

トや壁の素材も、お客様が身構えることなく描きくなるように工夫しました。また、らくがきを楽しめるフードやパステルカラーのドリンクなど、ぺんてるらしいメニューを用意しました。そのほか、「自分だけのオリジナル色のサインペンを作るワークショップ」など、盛りだくさんの企画で表現する楽しさを体験していただきました。



### みんなで過ごした校舎での“最後の思い出づくり”を応援



### 壁画を描いて感謝を表現する「校舎の思い出プロジェクト」

ぺんてるは、キャノンマーケティングジャパン株式会社と合同で、建替えや統合により取り壊される小学校を対象に、校舎での最後の思い出づくりをサポートするプロジェクトに取り組んでいます。

このプロジェクトは、両社の特徴を活かした支援の相乗効果で社会に貢献したいという想いから生まれました。

児童の皆さんは、お世話になった校舎に感謝の想いを込めて、校舎のいたるところにぺんてるの画材で自由に絵を描き、思い出をつくります。その壁画は大判ポスターにして新校舎に飾られるほか、壁画を制作する様子を「思い出写真係」の児童がカメラで撮影し、それをフォトブックにして思い出を残します。

近隣の地域住民、卒業生、保護者の皆様とも協力しながら、「描く・書くこと」「写真を撮ること」の楽しさを体験していただき、児童の皆さんが潜在的な創造力を発揮するきっかけにもなっています。

#### 実施した小学校

- 2014年6月28日 東京都豊島区立池袋第三小学校
- 2015年3月13日 埼玉県川口市立前川小学校
- 2015年3月13日 東京都江戸川区立第三松江小学校
- 2015年6月27日 東京都北区立なでしこ小学校
- 2015年7月17日 沖縄県浦添市立港川小学校
- 2015年9月26日 大阪府大阪市立北中島小学校



<http://www.pentel-kousha-omoide.jp/index.html>



Pentel ペンてる株式会社  
Canon キヤノンマーケティングジャパン株式会社

### 児童たちの創造力を引き出すきっかけに。

校舎の思い出プロジェクトを進める中で、児童の皆さんが思いもよらない創造力を見せてくれています。たとえば1年生が1階の壁に木のツルを描いたところ、それを見た上級生たちが「もっとつなげよう」と提案しました。2階は2年生、3階は5年生が絵をつないで描いていき、1階からスタートしたツルがどんどん伸びて、3階の大時計の周りに大きな花を咲かせました。児童たちの発想で、壁画が3学年共同の作品へと発展しました。



ご利用いただいたお客様からたくさんのご感想をいただいています！

久しぶりに絵を描いて!!  
童心にのびて楽しかった。時間も忘れてしまった。

いつもは忙しすぎて、絵が手につかなくていい機会がありました。

とくに「絵を描く解放感」

普段できない場所においそぎで描いて、夢中で、時間もおぼろげに過ぎた!!

らくがきして終われないなんて素敵です。

常識を超えた場所のキャンパス 描いてみるのを見て楽しくなって

### Voice

子どもたちの心が開放的になって絵を描いている

校舎に対しての「ありがとう」という感謝の気持ちや「寂しい」といった気持ちを、このペイントを通じて表現する想いが強いからこそ、子どもたちがあれほどまでに夢中になっていたのだと感じました。こちらの想像以上に強い想いを持って子どもたちが絵を描いていたことが一番の発見でした。実際に頭で考えたり、体を動かして活動したことは、とても意義のあることだったと思います。



江戸川区立 第三松江小学校  
中村先生

### Voice

図工ってこんなに楽しいんだ!

子どもたちが出来上がった壁画を作品として、とても大事にしていることが印象的でした。後日、子どもたちに感想を聞くと、「最初は楽しそうだなと思っていたけど、やってみると、自分より遥かに大きいキャンパスなので大変だった。だけど完成した時は達成感があった」「このような機会があればまたやりたいし、ほかの人にも体験してもらいたい」とのことでした。それほど心に残るイベントだったのだと思います。



豊島区立 池袋第三小学校  
高木先生

# お客様の安心のために

世界中のお客様に、未永く愛用される最高品質の製品づくりを目指し、品質活動を行っています。

## 品質保証体制

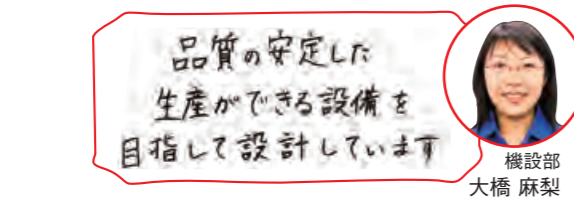
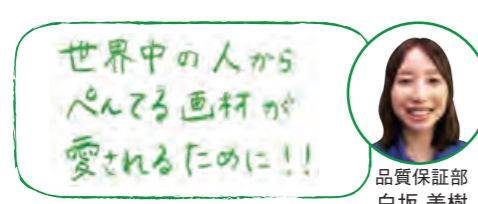
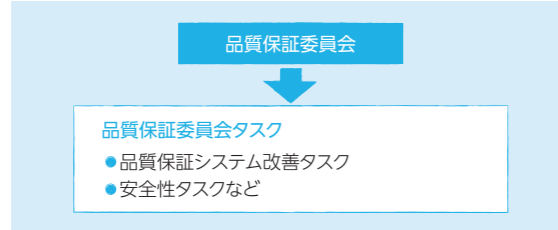
当社は、「優れた品質の製品であれば、国境や人種に関係なく世界中のお客様にお使いいただける」との信念のもと、絶えず世界最高品質の製品を目指して品質保証活動を行っています。現在は、品質保証委員会を核に、品質保証システム改善タスクなどの活動を行い、全社的な品質管理活動を実施しています。品質保証上のステップを明確にし、その役割を認識したうえで、全体として品質保証を効果的・効率的に実践するためのシステム(体系)を考え、その最適化を図ることにより、お客様に満足していただける製品を追求し、生産し、保証しています。

1976年には文具業界で初めてデミング賞<sup>※1</sup>実施賞を受賞し、現在は国内、海外の全生産拠点においてISO9001<sup>※2</sup>認証を取得しています。

### ISO9001 認証取得状況

1995年	茨城工場 吉川工場	
1998年	電子機器事業部	
1999年	機設事業部 台湾 台北工場	
2000年	フランス パリ工場	ぺんてるケミカル(株)
2003年	中国 天津工場	
2007年	インド工場	
2009年	メキシコ工場	

### 品質保証委員会



※1: デミング賞  
戦後の日本に統計的品質管理を普及させ、日本製品の品質を世界最高水準に押し上げる大きな礎となった故デミング博士の業績を記念して、1951年に創設された総合的品質管理に関する世界最高ランクの賞です。

※2: ISO9001  
品質管理および品質保証のためのISO(国際標準化機構)規格として1987年に制定されました。

※3: RoHS 指令  
電子・電気機器における特定有害物質(鉛、水銀など6物質)の使用制限についての欧州連合(EU)による指令です。

※4: REACH 規制  
欧州における化学物質の総合的な登録・評価・認可・制限の制度です。

※5: ISO8124-3  
国際玩具安全基準のパート3。重金属8元素に対して溶出量の基準が設けられています。

## 化学物質規制への取り組み

近年、RoHS 指令<sup>※3</sup>やREACH 規制<sup>※4</sup>など、製品に使われる化学物質に関する規制が強化されています。当社では企画・開発段階で、販売する各国の規制内容に基づき、各規制の化学物質の確認を実施し、JIS 規格はもとより、ISO8124-3<sup>※5</sup>やRoHS 指令に準拠した社内基準で品質設計を行っています。特に製品に含有される重金属に関しては、企画・開発段階はもちろんのこと、設計変更の際には、ICP 発光分光分析や蛍光X線分析などにより確認を行っています。

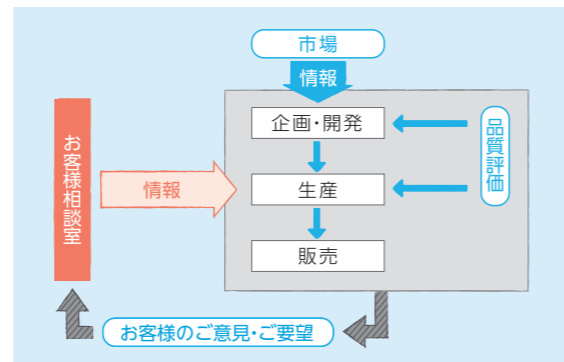


ICP 発光分光分析

## お客様相談室

当社では、「お客様相談室」を設置し、お客様からのご意見・ご要望に対し、きめ細やかに対応することを目指しています。お問い合わせは、製品の使い方から製造に関する質問までさまざまですが、その中でも、汚れの落とし方やリフィルの交換といったお問い合わせの頻度が高いものについては、公式ホームページに掲載し、必要な時に必要な情報をご覧いただけるよう対応しています。

### お客様相談室の体制図



WEB <http://www.pentel.co.jp/support/>

# お客様の笑顔のために

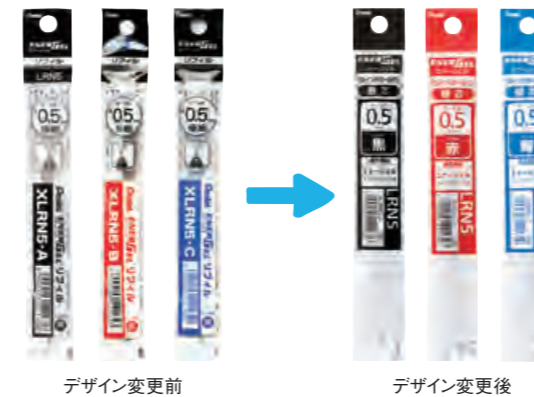
お客様の声を大切に、日々たゆむことなく研究活動を積み重ね、これまでになかった便利さや楽しさを提供します。

## お客様の声から

国内では、販売店様やお客様相談室を通して、毎日さまざまなご意見やご要望をいただいています。また、世界21カ所の販売拠点を介して、地域や国ごとの規制や使い方の特徴など、現地ならではの情報も寄せられています。これらのご意見やご要望は、当社にとってなにより貴重な財産であると考えており、迅速に経営トップへ伝えるとともに、関係部署での共有を図り、絶え間ない品質改善や新製品の開発に結び付けています。

### ボールペン替芯パッケージの変更(国内)

「どの替芯を買えば良いのか分からない」、「何色のインキが分かりづらい」という販売店様やお客様の声をもとに、購入時に必要な情報を整理し、適合商品の表記追加と、インキ色に合わせたパッケージデザインへ変更しました。



デザイン変更前

デザイン変更後

### お客様に喜んでもらえる価値への取り組み(海外)

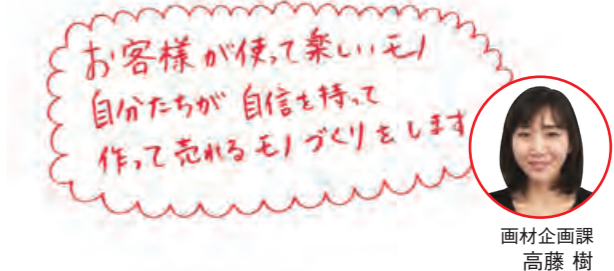
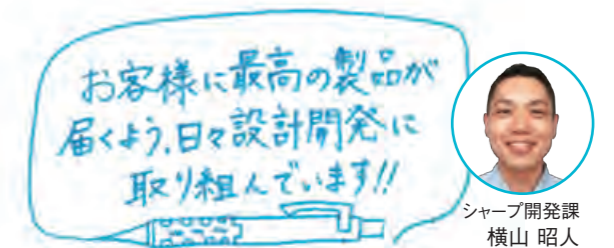
世界各国でFGI(Focus Group Interview)を行っています。グループ市場の嗜好、さまざまな消費者層別の好みを把握し、お客様目線でも喜んでもらえる製品づくりやサービスと販売活動を目指す目的で実施しています。



イタリア ミラノでのFGIの様子

## 独創的な商品を生み出す研究

基礎研究所では、お客様に「ぺんてるならではの」と喜んでいただけるような、独創的な新製品を目指して研究を進めています。新たなものを生み出す研究テーマ捻出のために、定期的な市場調査の実施や、新製品発表会での説明員として直接お客様の声を伺うなど、お客様目線を養い市場動向を正しくとらえる活動をしています。研究過程では、さまざまな技術的な壁が現れることもありますが、そんな時には、チームで自由にアイデアを具現化し、技術検証を行っています。その結果、個人では思いつかないアイデアが生まれ、課題解決への大きな一歩となります。これからも途中であきらめることなく、アイデアを活かした課題解決を推進して、研究を重ねていきます。



基礎研究所  
市場調査件数  
(2014年度)

240件

# パートナー、従業員とともに

大切なビジネスパートナーの皆様と公正・透明で適正な取引を基本に、誠実で健全な企業運営に努めています。

QCサークル数  
(2014年度)

57  
サークル

労働災害件数  
(2015年12月現在)

0  
件  
※休業災害

## お客様の手に渡るまで

原材料から製品として完成し、お客様の手に渡るまでには、多くの関係企業の協力が必要です。当社は、ビジネスパートナーの皆様と深い信頼を築き、共存共栄を目指し取り組んでいます。

## ■ お取引先様とのコミュニケーション

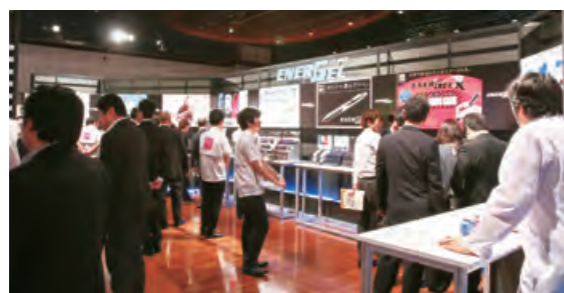
当社の製品は、代理店様や販売店様を通して、お客様へお届けしています。

これらのお取引先様と、より強固な関係を築き一体となって市場を創造するため、新製品発表会や店頭デモ販売、そのほか多くのイベントを定期的開催しています。2015年度は、国内のお取引先様向けに、東京都内の展示会場にて「ぺんてる新製品発表商談会」を開催し、新製品に関する情報や販売方針を共有しました。

また、海外グループ各社では、アジア、ヨーロッパ、アメリカなどブロックごとに、お取引先様向けに、当社の姿勢や取り組み、新製品の紹介や製品知識などに関する講習会を開催しており、信頼関係の強化に努めています。



本で行われた「Pentel Asia Meeting 2014 Tokyo」



ぺんてる新製品発表商談会

「あきらめない  
精神こそが  
成功につながる！」



量販営業部  
新居 正広

## ■ 協力企業様とのパートナーシップ

茨城工場では製品組立工程を委託している協力工場様を「幸和会」と称し、定期的に品質管理や工程管理についての勉強会を実施しているほか、計画的に異業種の工場見学や外部セミナーなどに参加し、一体となって改善活動を推進しています。

この「幸和会」は、創業者「堀江幸夫」の「品質」に対する思いを受け継ぐため、「幸夫」の「幸」の一字と、お互いの調和と相互理解を深め成長することを目的に命名され、今年で30年目を迎えます。今後も当社と協力工場様が切磋琢磨し、共存共栄を目指し取り組んでいきます。



「幸和会」勉強会の様子

## QCサークル活動

工場部門を中心にQC (Quality Control=品質管理) 教育の実践の場として、1965年よりQCサークルによる改善提案活動を推進しています。3工場のサークル数は、草加工場9サークル、吉川工場13サークル、茨城工場35サークルの計57サークルとなっています。QCサークルの全国大会でも自動車や電機メーカーに混じって金賞を受賞しているほか、出場回数でも上位に名を連ねています。最近の活動では「経理業務におけるルーティンワークの作業効率化」、「部品調達のグローバル化に伴う稼働率低下の改善」などのテーマで成果を上げています。



事務・販売・サービス部門 全日本選抜QCサークル大会

## 働きやすい職場環境づくり

### ■ ワーク・ライフ・バランスの実現

仕事と家庭を両立させるためには、所定労働時間の適正化はもちろん、部署や職種にとらわれずに制度を活用できる環境づくりが大切です。

現在、産休・育休取得率は100%となっており、さらに職場復帰後も、約半数以上の方が育児のための勤務時間短縮制度を活用しています。介護休職については、要介護状態にある家族を介護する必要があるときは通算93日まで取得することができます。なお休職中は、リモートアクセスサービスを通じて自宅からでも情報を共有するとともに、相談にも随時対応できる体制を整え、仕事と家庭の両立、働く環境の整備に努めています。

また、アフター5を充実させるために、社内のクラブ活動を支援しています。2015年10月現在26のクラブがさまざまな形で活動しています。また従業員個人参加で市民マラソン大会などにぺんてる製品の仮装で参加しており、ぺんてるらしさを発揮しています。このような活動が風通しの良い社内コミュニケーションの拡がりにつながっています。



マラソン大会にくれよんの仮装で参加する従業員



サークル活動 (バスケットボール)

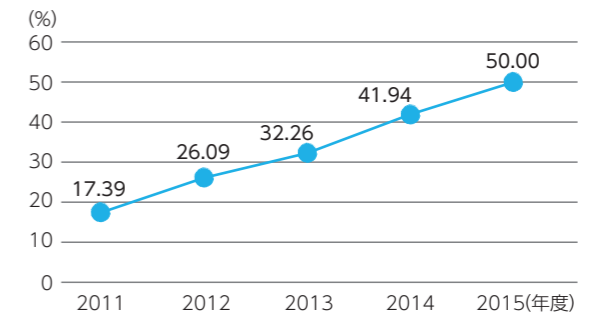
### ■ 自己申告制度

会社と社員の相互理解を深め、公平性、納得性のある処遇の実現と、将来の自己実現の一助となるよう、自己申告制度を実施しています。面談希望者とは人事部門責任者が必ず面談を行っており、仕事内容、能力開発、配置・異動に関する社員の意見や希望が人事部門へ直接伝えられ、個々の適性などを表明する公式な機会となっています。

## ■ 定年再雇用制度

2006年より定年退職者の再雇用制度を導入しています。2013年の高齢者雇用安定法改正に伴い、希望者は全員ぺんてるグループ内で再雇用されることとなり、再雇用制度利用者は年々増えてきています。定年後の生活の安定を図るとともに、長年当社で培った経験やスキルは技能の継承や後方支援などで活かされています。

再雇用者数推移 (年度内予定者含む)



## ■ 海外トレイニー制度

海外トレイニー制度とは、企業の中で将来海外拠点に赴任する可能性の高い若手社員を選抜し、「トレイニー」として一定期間、自社の海外現地法人へ赴任させる制度です。当社でも海外外向に対する研修制度と合わせて、海外トレイニー制度が定着してきており、制度利用者の評価は高いものとなっています。早くから現場を経験することで、海外赴任への良い準備となっています。

## 労働安全衛生

従業員の安全で働きやすい環境を確保するため、事業所ごとに安全衛生委員会を設置し、毎月のテーマを掲げて労働安全衛生活動に取り組んでいます。3工場については、特に機械などを扱う製造現場での取り組みに重点を置き、毎月工場巡回を実施し、危険箇所の是正に努めています。

最近では、安全衛生水準をさらに高めるために、労働安全衛生リスクアセスメントやメンタルヘルスの取り組み、また、健康診断結果に基づく有所見者への健康指導を行っています。今後も本社、3工場で相互に情報を交換し、労働災害ゼロの元気で健康な職場づくりを目指し、同活動を推進していきます。



労働安全衛生活動の推進による表彰

産休・育休取得率  
(2014年度)

100  
%

『ママでもないでっか！』  
育休明け後も、  
新しいチャレンジできる環境。  
あきらめず、あきらめず、  
周りに助けを借りよう！！



事業開発部  
小平 玲菜

トレイニー制度が、  
早くから現場を経験。  
海外での活躍を  
目指します！



海外営業本部  
田邊 彰

# 地域・社会とともに

医療活動への貢献や清掃活動、イベントなどを通して、企業パートナーとして地域の取り組みに参加しています。

## 事業を活かした社会貢献

### 乳がん撲滅キャンペーンへの参加

イギリスペンてるをはじめとした海外グループ会社では、乳がんの早期発見・診断・治療の大切さを伝える乳がん撲滅キャンペーンである、「BCC (Breast Cancer Care)」に参加しています。軸色がピンク色の製品の売り上げの一部を、BCCに参加し寄付することで、乳がん撲滅への協力をしています。2013年12月で累計1ミリオンド(日本円で約1億8千6百万円強)を寄付することができました。



ペンてるのBCC雑誌広告5千本のエネルギーピンク軸を使用



2015年10月30日付の地元紙(Swindon Advertiser)にペンてるのチャリティ活動が紹介されました

*The greatest gift has been the opportunity to be part of a long chain of people that stands with the first link. Mr. John Horie in his dream that Pentel could provide the best pens, pencils & art materials any consumer could expect to use. My sincere roles in manufacturing, quality and support which are appreciated and in this wonderful chain of Pentel working together to create their miracle of bright, safe, happy.*



ペンてるオプアメリカ Michael Storie

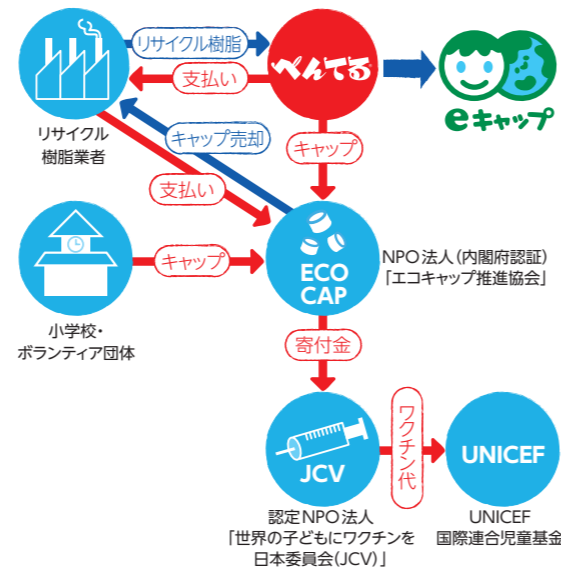
**Purple Stride:** It was inspiring to see so many survivors and supporters come together for such a great cause! I'm proud that our company is involved with PANCAN and Purple Stride.  
**BONUS:** Everyone LOVED our Violet EnerGel!



ペンてるオプアメリカ Mia Agee

### エコキャップ運動の応援

eキャップえのぐ(ラミネートチューブ)の製造・販売を通じて、世界の子どもたちへワクチンを届ける「エコキャップ運動」を応援しています。eキャップの材料は、エコキャップ運動で集められたペットボトル・キャップの再生材であり、この材料費の一部が、世界の子どもたちへワクチンを届けるために使われます。



### すい臓がんアクションネットワークへの活動支援

ペンてるオプアメリカでは、2013年から、すい臓がんの早期発見と治療研究、および患者・家族のサポートを目的とする非営利法人PanCANへの活動支援として、エネルギーの売り上げの一部を寄付しています。また、毎年PanCANのシンボルカラーであるパープル軸の名入れ製品を寄付し、彼らの活動に使用されています。さらに、従業員もすい臓がんに打ち勝った人を称え、すい臓がんへの意識を高めるPanCAN主催のチャリティウォーク&ランイベント「パープル・ストライド」に毎年参加しています。



「パープル・ストライド」に参加するペンてるオプアメリカのスタッフ

## 納涼祭

茨城工場、吉川工場では、毎年8月に、地域社会との親睦を深めることを目的に、従業員が企画から運営までを行う「納涼祭」を開催しています。2015年度は、茨城工場では約2,500名、吉川工場では約1,400名の地域の方々にご参加いただきました。

この納涼祭は、やぐらやステージといった会場の設営、出店の看板づくりから食材調理、さらに、交通整理や分別ゴミ箱の設置なども、従業員が一丸となって取り組むアットホームなお祭りとなっています。

また、お子さま参加のゲームやくじ引きなどのイベントも満載で、来場される多くの方々楽しんでいただくと同時に地域の方々との交流にも一役買っています。



## 工場周辺のグリーン活動

国内3工場では、年に数回、周辺の道路や近隣の公園などの清掃活動を実施しています。日ごろの感謝の気持ちを込めて工場の全従業員が参加し、地域に少しでもお役に立てるよう努めています。



## 海外でのイベント

ユーロペンてる(フランス)では、毎年6月に従業員とその家族や地域の方々、お取引先様を招待し、ユーロ工場前広場にて「メシュイ」※1を開催しています。当日は、社員手づくりのゲームや出し物もたくさん催され、食事をしながら交流を深めています。



近隣住民の方々と来永くお付き合いできる工場運営を目指します。

草加工場業務課 増田 康弘



総務は会社の何でも屋です。他部署とのつながりを大切に、信頼される仕事を心がけています。

総務人事部 有賀 弓恵



国内3工場  
清掃活動件数  
(2014年度)

9  
件

※1:メシュイ アラブ系伝統行事がフランスに伝わったもので、地域や家族など、大勢で子羊の丸焼きやバーベキューを楽しむ野外行事です。

# 次世代のために

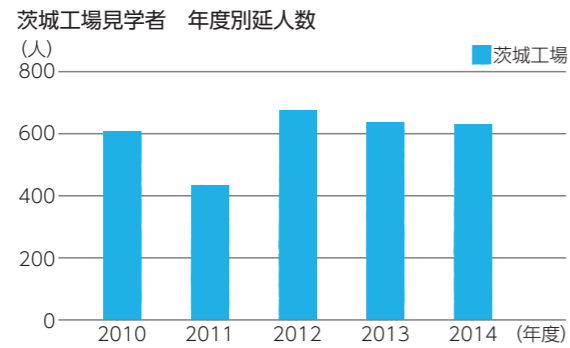
工場見学の実施や児童画展、写生会への協力などを通して、従業員一人ひとりが地域や社会から信頼され、次世代の役に立てるように努めています。

写生会協賛件数  
(2014年度)

50  
件

## 本社・工場見学の実施

茨城工場では、近隣の小中学生をはじめとして、地域社会、お取引先様などに対して、工場見学を実施しています。筆記具や画材が生産されている現場を間近で見ること、ものづくりの姿勢や環境保全への取り組みを知っていただいています。2014年度は、合計37件、630名の見学がありました。また、本社では、毎年、中学校の修学旅行の課外授業として、実際の仕事現場を見学していただき、社史や事業概要の説明を行うとともに、学生からの質問に答え、主体的に学んでいただく機会を提供しています。



小学生工場見学 (茨城工場)

## 中学生・高校生の職場体験

地域貢献の一環として、中学生の職場体験や高校生のインターンシップを受け入れています。働くことを通じて、勤労意欲や職業観を身につけていただけるよう、次世代の人材育成にも努めています。



中学生職場体験 (吉川工場)

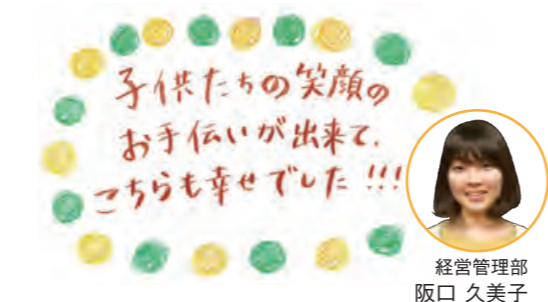
## 写生会、絵画教室

毎年、全国各地で開催される写生会に協賛をしています。2014年度は50件の写生会に協賛・協力しました。また、海外でも絵画教室を開催するなど、積極的に活動を展開しています。

### 山下公園ファミリー写生大会

2015年4月26日、当社が協賛する「第32回山下公園ファミリー写生大会」(横浜市PTA連絡協議会主催)が開催されました。今回は、ご家族での参加を含め約20,000名の参加があり、大会参加者による展覧会にも、約3,000点の応募がありました。

同写生大会では、筆洗いの水が必要となりますが、その汚水を勝手に公園に捨てることは当然厳禁です。そこで、ペンてるの新入社員が筆洗い用の水汲みや、汚水の処理をお手伝いしています。社会人として、初めて体験する社会貢献活動です。参加者の皆様から、「お疲れさま」と声をかけていただき、とても有意義な名物研修となっています。



## 世界児童画展

当社は、1970年より公益財団法人 美育文化協会主催の「世界児童画展」に協賛しています。同展は、大阪万国博覧会会場にて第1回が開催され、2014年に第45回を迎えました。世界38の国と地域から10.5万点(国内6.9万点、海外3.6万点)を超える作品の応募がある、世界最大規模の児童画コンクールです。



国内応募作品: 文部科学大臣奨励賞  
「小鳥とねことあそぶ女王さま」



海外応募作品: 外務大臣賞  
「屋根の上でキスするハトたち」

## 教育や支援のための製品協賛

当社は、児童の教育や支援を目的とした活動を行う、企業や法人のイベントに製品協賛を行い、各活動に協力しています。

### チームラボアイランドー学ぶ!未来の遊園地ーへの協賛

当社は「チームラボアイランドー学ぶ!未来の遊園地ー」に製品協賛しています。共に創る「共創」をテーマにした体験型知育空間の提供、というチームラボキッズ社の主旨に賛同し、「お絵かき水族館」などで使用する「ずこうクレヨン」を協賛しています。2015年夏には全国20カ所で開催され、国内外で累計入場者数が200万人を突破したイベントで、多くの親子にお絵かきの楽しさを体験していただいています。



<http://island.team-lab.com/>

### ゴールドリボンウオーキングへの協賛

当社は「ゴールドリボンウオーキング」に協賛しています。ゴールドリボンウオーキングとは、小児がんへの理解促進、治療法や薬、患児の生活の質向上のための研究開発を支援する認定NPO法人ゴールドリボン・ネットワークが主催する啓発イベントです。当社は、塗り絵体験イベントでの画材提供、参加者全員への記念品配布(メッセージ入りボールペン)を通じて、この運動の認知度向上に協力しています。



<http://www.goldribbon.jp/>

### リトルリーグへの協賛

公益財団法人日本リトルリーグ野球協会へ製品協賛を行い、全国のリトルリーグで活躍する子どもたちを応援しています。全国で開催されるさまざまな大会に参加する子どもたちには参加賞を、大会運営関係者には事務用筆記具を協賛しています。

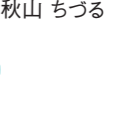


クレヨンパスの筆なら私に任せて下さい!!



画材一課  
秋山 ちづる

良質な製品を提供します。



画材一課  
菅谷 義英

# 環境理念・環境方針

地球環境保護、環境汚染防止を重要な基本理念とした環境マネジメント体制のもと、全社員で環境保全に取り組んでいます。

## 環境綱領

当社では、地域社会のよき企業市民として企業の社会的責任を果たすため、1996年に環境綱領を制定し、1997年に環境管理・推進の組織を立ち上げました。主に環境への負荷が大きい工場での活動を推進しており、2003年より全社環境管理委員会を組織し、全社規模での取り組みとしています。

### 環境綱領(1996年制定)

#### ●基本理念

ぺんてるは地域社会のよき企業市民として、企業の社会的責任の重要性を認識し、地球環境保護と環境汚染防止を企業経営の重要な理念として、全社員の環境意識を高め、社会運営の全てで人と環境に調和した企業活動を推進します。

#### ●行動指針

1. 企業活動全般にわたり、設計開発から廃棄にいたる全ての段階において環境保全を考慮した製品とサービスを開発し、提供します。
2. 環境に関連する国内外の関連法及び協定、約束を遵守し、継続的環境の保全と向上を図ります。
3. 海外事業展開に際しては、相手国の環境保全の確保に努めます。
4. 新規事業の計画に当たっては、継続的なアセスメントを実施し、環境保全に努めます。
5. 社員に対しては、環境保全に対する情報の提供と教育を行うとともに、顧客、行政、地域社会に対しても環境保全のために必要な情報を提供します。
6. この方針を全社員、全組織に周知徹底するとともに、環境保全に関する知識と技術の向上に努め、全社一丸となった環境管理活動を推進します。

チャレンジ精神  
理論に基づいた設計  
と品質管理



シャープ開発課  
三浦 隆博

製品千本あたり  
CO<sub>2</sub>発生量

2013年度

15.67 kg

2014年度

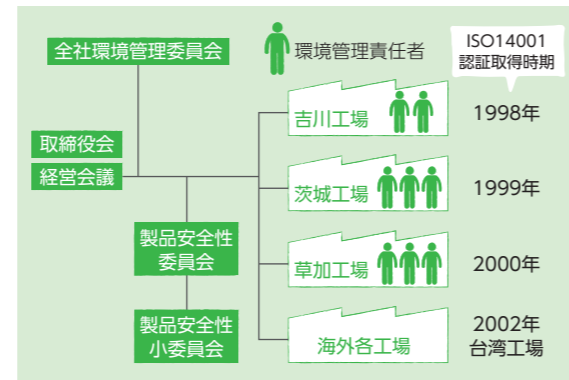
15.21 kg

※1kWh=0.339kgで換算

## 環境マネジメント体制

環境綱領の基本理念をもとに、工場やオフィスにおいて、環境経営および環境保全の取り組み強化を目的として、環境マネジメント体制の整備とシステムの構築・運用を行っています。ISO14001※1を国内3工場では1998年から順次、海外では2002年に台湾工場において取得し、継続的な改善を実施しています。

### 環境マネジメント体制



### ●環境教育の推進

全社員を対象に、環境に関する基礎知識や環境保全への意識向上のための環境教育を行っています。さらに環境推進のリーダーへは、環境に係る法規制や専門技術、技能教育、内部環境監査員認定教育を実施しています。

### ●内部環境監査と改善活動

各工場の環境管理責任者を中心に、内部環境監査員がISO14001や環境マネジメントシステムに関する適合性をチェックするとともに、各部署からの提案を吸い上げ改善の機会としています。また、QC (Quality Control = 品質管理) サークル活動を通して環境改善提案や壁新聞コンクールなどを行い、社員一人ひとりが参加するボトムアップ活動が実施されています。



開発営業部  
蕪山 剛志

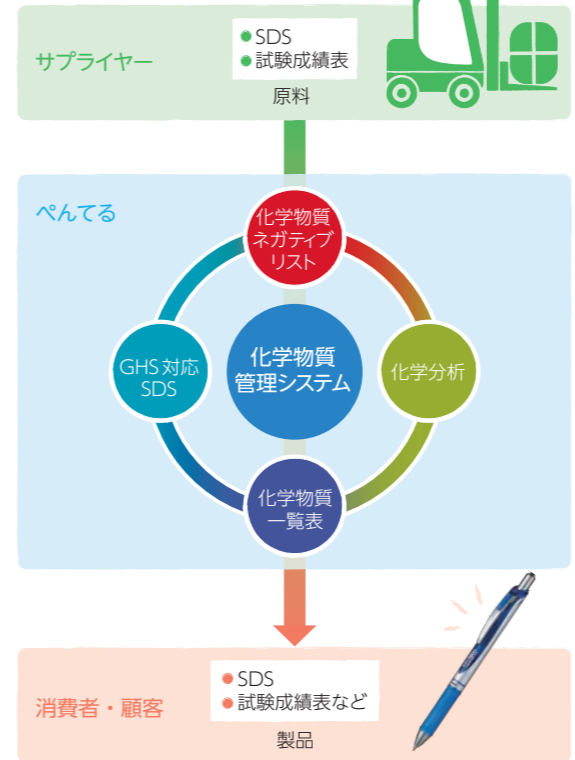
## 法令順守評価

### ■化学物質の適正管理

RoHS 指令※2やREACH 規制※3など化学物質に関する規制を確実に遵守するために、個々の製品や原材料に使用されている化学物質の安全性についてデータベース化し、化学物質管理システムの構築を進めています。

「GHS※4対応SDSシステム」により、「化学物質ネガティブリスト」および「化学物質一覧表」と照らし合わせ、サプライヤーから提出された原材料の化学物質含有量の調査・把握などを迅速に行っています。

### 化学物質管理システム



### ■設備などの適正管理

当社では、環境(水質、大気、土壌、騒音振動、オゾン層破壊、資源エネルギー保護など)に影響を与える設備を、法規制あるいはそれ以上の厳しい基準での維持管理をしています。設備ごとに管理項目・基準・周期そして管理方法を定めています。

## 社外認証制度の取得

ISO14001 認証取得をはじめ、地球に優しい企業認定制度やエコ事業所登録、リサイクル優良事業所の継続認定(以上、茨城県)、エコ通勤優良事業所認定制度(公共交通利用推進等マネジメント協議会)など、公共団体や第三者機関の認証制度を積極的に活用し、当社の環境マネジメントシステムの資質を客観的に評価し、システムの有効性向上に努めています。

茨城工場では、埋め立て処理をしていた物質を使用している製品の素材変更などを実施し、2011年度からリサイクル率100%とゼロエミッションを毎年達成し、茨城県リサイクル優良事業所の認定を継続して受けています。



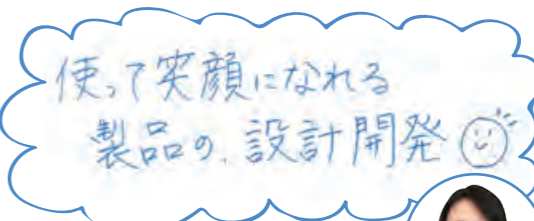
エコ事業所登録証



エコ通勤優良事業所認証



茨城県リサイクル  
優良事業所認定証



化成品部  
米田 晶



温故知新

ペン開発課  
古屋 圭章



※2: RoHS 指令  
電子・電気機器における特定有害物質(鉛、水銀など6物質)の使用制限についての欧州連合(EU)による指令です。

※3: REACH 規制  
欧州における化学物質の総合的な登録・評価・認可・制限の制度です。

※4: GHS  
2003年7月に「化学品の分類および表示に関する世界調和システム」(The Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals: GHS)が国連勧告として出されました。GHSは化学品の危険有害性を一定の基準に従って分類し、絵表示などを用いて分かりやすく表示し、その結果をラベルやSDS (Safety Data Sheet: 化学物質等安全データシート) に反映させ、災害防止および人の健康や環境の保護に役立てようとするものです。

# 環境保全への取り組み

原材料調達から製造、廃棄までの全事業活動を通して、CO<sub>2</sub>排出量削減や生物多様性の保全に取り組み、環境負荷の低減に努めています。

## 事業活動と環境負荷の関わり

当社の事業活動のプロセスにおいて、原材料やエネルギー、水といった地球資源を利用する（インプット）と同時に、CO<sub>2</sub>や廃棄物などが排出されています（アウトプット）。

当社では、事業活動に伴う環境への影響を正しく把握し、製品の開発から生産、輸送、消費、リサイクルされるまでの全事業活動を通して、限りある地球資源を大切に使用し、環境負荷の低減に取り組んでいます。

エネルギー	
燃料および熱	15,029 GJ
軽油	96 GJ
石油ガス(LPG)	10,167 GJ
都市ガス	4,766 GJ
電力	
105,377 GJ	
昼間電力	75,575 GJ
夜間電力	29,802 GJ
原材料	
包装材使用量	482 t
化学物質投入量(PRTR届出対象物質)	93 t
水資源	
上水道	17,220 m <sup>3</sup>
地下水	141,563 m <sup>3</sup>



温室効果ガス(GHG): 産業廃棄物処理時のGHGも含む	
総排出量	5,970 t-CO <sub>2</sub>
調整後排出量	5,959 t-CO <sub>2</sub>
廃棄物	
産業廃棄物量	477 t
この内、埋め立て処理	3 t

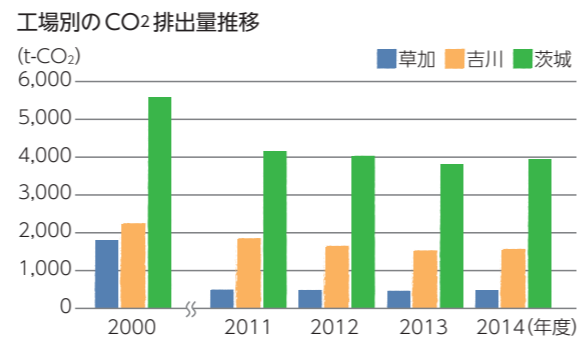
「会社の活動を正しく記録すること」を常に心がけ、わからないことは納得するまでとことん追求しています。

経理部 川島 宏之

※1: 第二種エネルギー管理指定工場  
年度のエネルギー使用量が原油換算で1,500kL以上3,000kL未満の工場・事業場は、「第二種エネルギー管理指定工場」に指定されます。

## CO<sub>2</sub>排出量の低減

当社では電力をはじめとしたエネルギー消費の削減や、再生樹脂の活用、廃棄物削減などによりCO<sub>2</sub>排出量抑制に取り組んでいます。また国内3工場では、毎年CO<sub>2</sub>排出量削減目標を定め、全社一丸となってCO<sub>2</sub>排出量削減のための取り組みを進めています。



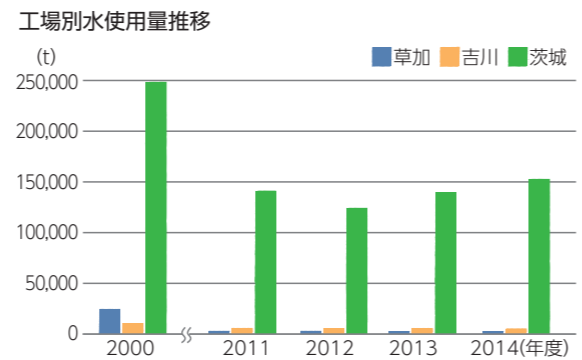
※東京電力2011年度炭素クレジット反映後のCO<sub>2</sub>排出原単位(0.463kg-CO<sub>2</sub>/kWh)に合わせて、過去の数値もさかのぼって修正しました。

## 省エネルギーへの取り組み

2010年の省エネ法改正により当社は特定事業者、茨城工場は第二種エネルギー管理指定工場※<sup>1</sup>に指定されました。国内3工場では、消費電力の少ない製造設備の調達・切替、製造工程の効率化に取り組んでいます。吉川工場では蒸気配管や替芯乾燥機の改善、茨城工場ではコンプレッサー(空気圧縮機)の運転効率化で、消費電力削減を進めています。また、リアルタイムで電力消費監視を行い、計画値を超過しそうな場合は、使用抑制措置を行っています。

## 水資源使用量の削減

茨城工場では、水の使用量、排水量を継続的に管理しています。製造設備の冷却水の循環利用や節水などの取り組みにより、使用量の削減に努めています。



## 廃棄物の削減とリサイクル

当社ではゼロエミッションを目指し、徹底した無駄の排除による廃棄物の削減とリサイクルの推進に取り組んでいます。

茨城工場では2010年度のリサイクル率が99.7%でしたが、埋め立てせざるを得ない廃棄物となる材料を使用しない設計に変更することで、2011年度以降は継続してリサイクル率100%を達成しています。

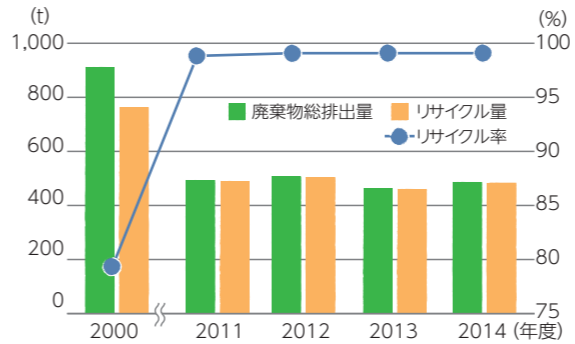
また、流通段階を終えるとほとんど廃棄される梱包材については、従来のダンボール箱から再生紙の折箱へ切り替えたり、折り畳みコンテナを使用することにより、廃棄物量の削減を進めています。

さらに、お客様が使用する時にゴミとなる製品パッケージは、すべてリサイクル材を使用しており、専用設計を行うことで無駄を省き、使用材料の少量化も進めています。

### ゼロエミッションの取り組み

- 廃棄物の分別収集およびそれによる有価物化
- プラスチック廃棄物の高炉原料化、セメント材料へのリサイクル
- 生ゴミのコンポスト処理
- 廃蛍光管のリサイクル

## 3工場合計廃棄物量とリサイクル量・率の推移



梱包材の変更(ダンボール箱から再生紙の折箱に)

## 生物多様性の保全

事業活動による直接的・間接的な生物多様性への影響を認識し、工場からの排水が生態系に影響を与えていないかどうかを常に把握し、評価しています。

## 工場排水によるホタル育成

茨城工場では、1964年の稼働開始以来、工場排水が流入する霞ヶ浦の水環境保全のための工場排水浄化に取り組み、浄化した工場排水による魚類の飼育を続けてきました。2008年、水環境保全の進化を目指して排水浄化設備を更新し、工場内に設置したビオトープにてホタルの育成に取り組みました。2009年からは、毎年羽化し初夏の夜空を舞っています。茨城工場の排水が清流に棲むホタルが生息できるまで浄化されたことを証明しています。



茨城工場内のビオトープを舞うホタル 茨城工場内で羽化したホタル

## 最終放流槽でのアユの飼育

ホタルの育成に引き続き、工場排水の最終放流槽のコケ付着を防止するため、2011年よりアユの飼育に取り組みました。同年5月上旬に稚魚300匹を最終放流槽に放し、8月には20cmを超える大きさにまで成長しました。

アユが生息できる水質の目安としてBOD※<sup>2</sup>平均値が3mg/L以下という指標がありますが、工場排水は清流と呼べるレベルであることが十分証明できました。また、成長したアユは納涼祭で塩焼きにし、地域の方々に美味しく召し上がっていただいています。



最終放流槽で元気に泳ぐアユ 納涼祭で好評だったアユの塩焼き

国内3工場  
合計リサイクル率  
(2014年度)

99.3%

※2: BOD Biochemical Oxygen Demand(生物化学的酸素要求量)は、微生物が水中の有機物を酸化分解するときに必要な酸素の量で、主に河川の汚濁指標として使用されます。

# 誠実、健全であるために

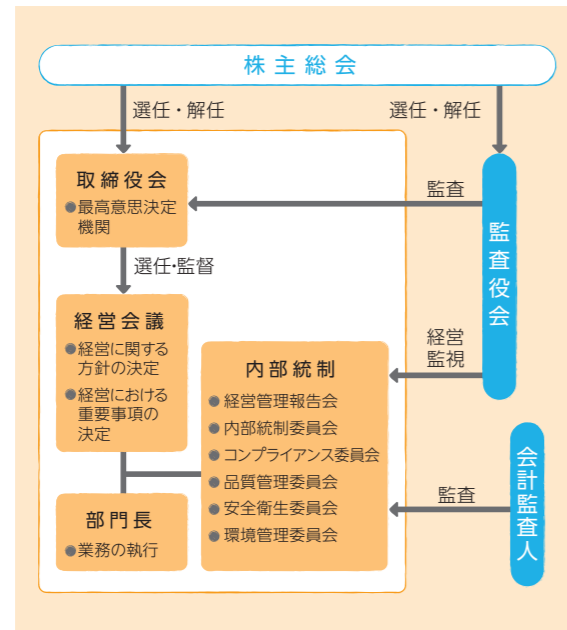
内部統制システムの見直しを行い、グループ行動規範の周知徹底を図って、グループ全体で公正な取引や危機管理を行っています。

## コーポレート・ガバナンス

当社では、誠実で健全な企業経営に努め、ステークホルダーの皆様への責任を果たすため、2015年5月の会社法改正に伴い、新たに「内部統制システム構築の基本方針」を導入し、コーポレート・ガバナンスの基礎としています。

取締役会を最高意思決定機関として、定時および臨時に会議を開催し、グループ全体の経営に係る重要事項を審議、決定しています。また、月に一回開催される経営管理報告会において、担当取締役および執行役員から業務執行状況の報告を受け、情報の共有化、問題点の早期の把握と対応を取れる体制を確保しています。監査体制は、2015年6月末現在、社外監査役2名を含む3名で監査役会を構成し、会計監査人やリスク管理部と連携し、業務上の不備や問題点の早期発見と是正、業務の改善に向けたアドバイスや勧告を行っています。

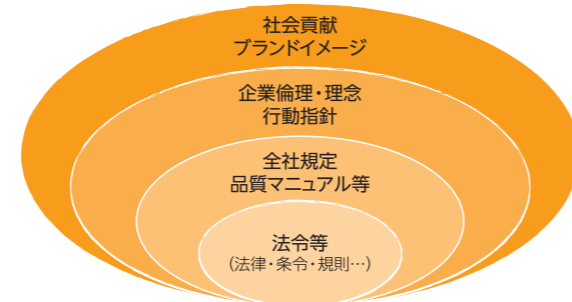
### コーポレート・ガバナンス体系図



## コンプライアンス

グローバルな事業展開を行う企業として、コンプライアンスは、最も重要な課題の一つとらえています。単なる法令遵守に留まらず、企業倫理や道徳、社内ルール、国や地域の法令や規制の厳守はもとより、正しい行動を実践するためのものと位置づけ、グループ全体での推進を図っています。また、2015年に策定した「ぺんてるグループ行動規範」を日本だけでなく、全世界の関係会社にも配布し、周知徹底を図っています。

### コンプライアンスイメージ



### ぺんてるグループ行動規範

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 1 法令の遵守        | 6 ステークホルダーとの関係 |
| 2 人権の尊重        | 7 取引先との相互発展    |
| 1 雇用における機会均等   | 8 地域との共存       |
| 2 児童労働、強制労働の禁止 | 9 多様性の理解       |
| 3 差別の禁止、人格の尊重  | 10 利益相反の回避     |
| 3 職場環境の整備      | 11 反社会勢力との隔絶   |
| 4 環境保全         |                |
| 5 製品・サービスの安全   |                |

## 仕入れ先様との公正な取引

当社は原材料、部品、仕入製品などの購入について、市場の動向を敏感にとらえながら適正な価格で公正な取引を行うことを基本姿勢としています。海外との取引では、全世界より良質の物をタイムリーに調達するために、サプライヤー様の製造現場まで足を運んでいます。また近年、環境問題に対する規制も厳しくなっており、規制に適した購入先を選定し、お客様に満足いただける製品づくりの下支えとして、今後も公正かつ公平な関係を維持しながら努力を重ねていきます。

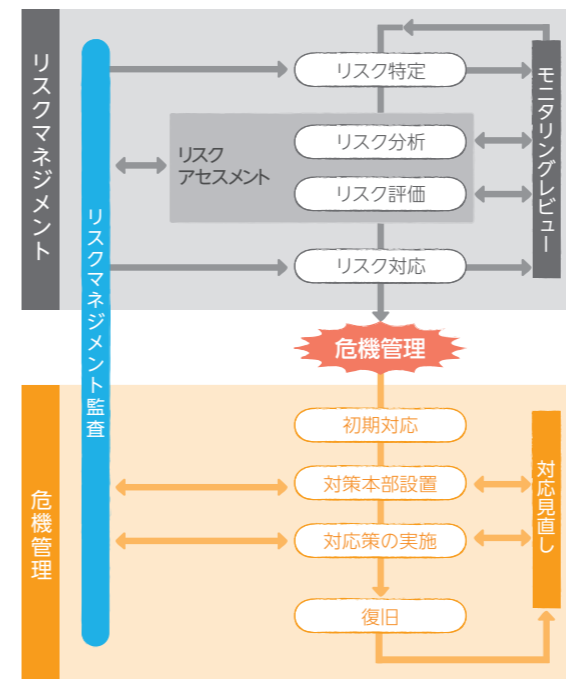
## リスクマネジメント

企業経営に重大な影響を及ぼすさまざまなリスクに対し、定期的に社内のリスク情報を収集し、未然防止に努めるとともに、万一発生した場合、被害の最少化と迅速な復旧対応を図ることを経営の重要課題と考え、国内においては、社長を本部長とした危機対策チームが編成されています。また、海外関係会社からは、随時リスク情報を収集し、その都度対応を関連部署で協議し指導・連絡を行い、リスクの早期発見と対応も行っています。

### 知的財産の保護と活用

当社の知的財産は、商品開発本部知財管理部が一元的に管理するとともに、研究・開発・製品の各テーマと連動した知財戦略を立案し、遂行しています。特許出願については、研究・開発の成果に応じた出願を実施するとともに、周辺保護の出願も行うことで類似製品の出現の阻止を図っています。また、他人の知的財産を尊重するという意図のもと、研究・開発の各ステップにおける他社権利の調査を行っています。ブランドを保護する商標は、世界100ヶ国以上で出願、並びに権利化しています。模倣品に対しては、研究部門をはじめ、営業部門や海外のグループ会社とも連携し、毅然とした姿勢で製品の保護と権利の保護を図っています。

### リスクマネジメントのプロセス



## BCP (事業継続計画) 策定

全社を挙げてBCP (Business Continuity Plan=事業継続計画) に取り組み、万一の際のリスクを想定し改善を進めています。

厚生労働省や経済産業省のガイドラインを参考に「新型インフルエンザ対策マニュアル」を策定し、新型インフルエンザ大流行時における安全確保を最優先とした事業運営体制や、海外外向社員への感染予防の措置などを取り決めました。

国内3工場においては、危機となる状態を未然に防ぎ、緊急時の必要な対応・手順を示した危機管理マニュアルを作成し、万一の事態に備えています。

大地震などの大規模災害に対応した備蓄の確保や緊急連絡網の整備、年に一度安否確認システムを使った実施訓練を全社一斉で行うなど、災害に対する対応も行っています。

情報セキュリティの世界では常に新たな脅威が生まれ、円滑に仕事を続けるためには、常に最新の情報セキュリティ対策を講じる必要があります。情報システム部では、コンピュータ安全規定を設定し、情報資産を過失、事故、災害、犯罪などから守る継続的な活動を行うとともに、従業員へ向けたセキュリティ対策教育や、コンピュータシステム災害対策として、バックアップデータ遠隔地定期保管の実施や、データの復旧作業の訓練を年に数回行っています。



防災訓練 (茨城工場)

[安否確認システム] による安否確認訓練 安否状況報告率



※6時間以内の回答率結果

コツコツと丁寧  
をモットーに  
頑張っています。



知財管理部 押田 泰輔



# ペンてる株式会社

〒103-8538

東京都中央区日本橋小網町7-2

TEL 03-3667-3333 (代表)

<http://www.pentel.co.jp>

お問い合わせ窓口

コーポレートレポート編集委員会 事務局

TEL 03-5695-7268



印刷用紙正に管理された森林で生産されたことを示すFSC森林認証紙を使用。



印刷インクは、大気汚染原因となるVOC(揮発性有機化合物)の発生を減らすため、植物油インクを使用。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。